

中日理論言語学研究会第40回記念大会国際フォーラム2015  
「言語における形式と意味の対称-非対称性」  
2015年1月11日（日） 同志社大学寒梅館

## 類型論的立場からみる様態副詞の対称性と非対称性

沈力  
(同志社大学・山西大学)  
lshen@mail.doshisha.ac.jp

## 1. 問題の所在

### ・世界の捉え方

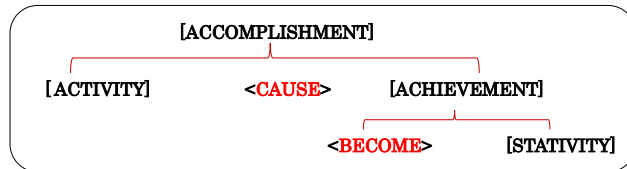
- (1) Vendler (1967) による事件の四タイプ  
Stativity (状態性)  
Activity (動作性)  
Achievement (到達性)  
Accomplishment (達成性)
- (2) 金田一春彦(1950)による動詞の四タイプ  
状態動詞 (= Stativity)  
継続動詞 (= Activity)  
瞬間動詞 (= Achievement)  
第四種動詞 (≠ Accomplishment)

### ・疑問:

事件の4タイプは偶然であろうか。

2

### ・因果連鎖(causal chain)



Cf. Dowty (1979), Jackendoff (1990), Croft (1991), Langacker (1991), Levin and Rappaport Hovov (1995), Goldberg (1995), Kageyama (1996)

### ・疑問

このような複雑な意味構造は自然言語において如何に表現されているのか。

3

## 1.1. 中国語の様態副詞の特徴

### ・模写性を持つ: [反復形(擬態性) vs. 非反復形(階段性)]

- (3) a. 张三 (很) 仔细地 搜查了 现场。  
Zhangsan very carefully investigate-PF scene  
‘張三是(とても)注意深く現場を捜査した。’  
b. 张三 (\*很) 仔仔细细地 搜查了 现场。  
Zhangsan very carefully investigate-PF scene  
‘同上。’

### ・連用修飾機能を持つ: [Adverb-Verb vs. \*Verb-Adverb]

- (4) a. 张三 偷偷地 斟了 一杯 红酒。  
Zhangsan secretly pour-PF one-CL wine  
‘張三是こっそりとお酒を注いだ。’  
b. \*张三 斟了 偷偷地 一杯 红酒。  
Zhangsan pour-PF secretly one-CL wine  
‘同上。’

4

## 1.2. 様態副詞におけるミスマッチの問題 (cf. 朱 1982: 153, 呂 1986: 1-9)

- (5) a. 张三 慢慢地 斟了 一杯 红酒。 (動作の様態)  
 Zhangsan slowly pour-PF one-CL wine  
 '張三是一杯のお酒をゆっくりと注いだ。'
- b. 张三 瀟瀟地 斟了 一杯 红酒。 (目的語の様態)  
 Zhangsan fully pour-PF one-CL wine  
 '張三是一杯のお酒をなみなみと注いだ。'
- (6) 我 給你 慢慢地 / ?瀟瀟地 斟。  
 1SG for 2SG slowly fully pour  
 'ゆっくり/なみなみと注いであげる。'

- 疑問  
なぜ様態副詞と動作動詞の間にミスマッチが起こるのか。

5

## ・ 基本的発想

- 中国語の様態副詞は副詞として述語に先行し、述語の様態を描写する機能を持っている。
  - 単純動作述語と共起する場合、動作の様態を描写する。
  - 達成動作述語と共起する場合、結果様態を描写する。
  - 達成動作述語の定義: [動作述語(Activity) + 到達点]
- 言語類型論に基づく観点:
  - 分析的言語: 達成事象は分析的に構成される。
  - 膠着的言語: 達成事象は融合的に構成される。
- 様態副詞におけるミスマッチの現象は存在しない。

### 結果様態副詞仮説

結果様態副詞は達成事象(Accomplishment)の結果成分を選択し、結果様態を描写する機能を持つ副詞である。

6

## 2. 様態副詞のミスマッチに関する先行研究

### ・ 早期の研究成果:

- 朱德熙(1982:153)によれば、「作状語の形容词在意義上只跟后头动词的宾语相关, 跟动词在意義上反而没有直接的联系(連用修飾語としての形容詞は意味的に目的語に関係付けられるのであって、逆に動詞と直接に関連性がない)」と指摘。

- (7) 圓圓的 排 成 一个 圈。  
 roundly form-up one-CF circle  
 '1つの丸い輪になって立ってください。'

- しかし、このミスマッチの現象の生起条件が示されていないため、不自然な文。

- (8) 朱德熙 (1982:153)  
 辣辣的 做 一碗 汤。 不自然(1/10)  
 spicily make one-CF soup  
 '一杯の辛いスープを作った。'

7

- 呂叔湘(1986)では、さらに「应该是定语的词语跑到了状语的位置上(連体修飾語であるはずの語句が連用修飾語の位置に来ている)」とまで指摘。

- (9) a. 咱们 热热的 来 壶 茶 喝。 《骆驼祥子》  
 1PL hotter serve CF tea drink  
 '1壺の熱々のお茶を出してくれ。'
- b. 咱们 [热热的] 来壶 [0<sub>1</sub> 茶]

- はたして連用修飾副詞と目的語NPにかかる連体修飾語との間に関係があるのだろうか。

- (10) a. 他 饱饱地 吃了 一顿 米饭。  
 3SG fully eat-PF one-CF rice  
 '彼はご飯をおなか一杯食べた。'
- b. \*他 吃了 一顿 饱饱的 米饭。  
 3SG eat-PF one-CF full rice  
 '彼はたくさんのご飯を食べた。'

8

### ・最近の研究成果:

- ・蘆建(2003)は、このミスマッチの擬態副詞を“事物状語(模写連用修飾語)”と見なし、それは[+作成]を持つ動作動詞と共起し、[主観的意志性]を表すと指摘。

(11) 老师 圆圆地 画了 一个 圈。 [ +作成]

teacher roundly drew-PF CF circle

‘先生は1つの円を(\*丸く)描いた。’

(12) ?妈妈 糊了巴叽地 熬了 锅 粥。 [ -主観的意志]

mother scorchingly make-PF CF soup

‘お母さんは焦げ臭いお粥を作った。’

#### <反例>

(13) 爸爸 满满地 斟了 杯 红酒。 [ -作成]

father fully pour-PF CL wine

‘お父さんは一杯のワインをなみなみと注いだ。’

(14) 张三 歪歪扭扭地 写了 一行 字。 [ ±主観的意志]

Zhangsan slantwise write-PF one-CL character

‘張三是一行の文字をぐにゃぐにゃに書いた。’

9

- ・李勤榮(2007)は、このミスマッチの擬態副詞を「目的語指向の連用修飾語」と見なし、「目的語指向の連用修飾語」は動作性動詞と共起し、動作性動詞のプロセスを表すと提案している。したがって、下記の「圆圆地」が動作のプロセスを描写すると指摘。

(15) 她 圆圆地 画了 一个 圈。

3SG roundly drew-PF one-CF circle

‘彼女は1つの円を(\*丸々と)描いた。’

#### <間違った生起条件による判断ミス例>

(16) a. 他 硬硬地 摸着 块 石头。 0/10

3SG hardly touch-PROG CF stone

‘彼は硬い石を触っている最中だ。’

b. 她 嫩嫩地 蒸着 一碗 蛋。 0/10

3SG softly heat-PROG one-CF egg

‘彼女は卵を柔らかく蒸している最中だ。’

10

### 3. 本仮説の根拠(1): 結果状態副詞と量化動作の達成点

#### ・量化動作の定義

- (17) a. 量化動作: ある対象物の数量はそれに関わる動作の推進によって変化する。  
b. 非量化動作: それ以外の動作。

【テスト1】: “目的語が“越V越多 or 少(Vすればするほど多い or 少ない)”で置き換えられるか。

#### (18) 量化動作

a. 他 在 倒 茶。 →お茶は注げば注ぐほど多くなる。

3SG PROG pour tea

‘彼はお茶を注いでいる最中だ。’

b. 他 在 抹 黄油。 →バターは塗れば塗るほど多くなる。

3SG PROG spread putter

‘彼はバターを塗っている最中だ。’

11

c. 他 在 写 字。 →文字が書けば書くほど多い。

3SG PROG write character

‘彼は字を書いている最中だ。’

d. 他 在 种 柳树。 →柳は植えれば植えるほど多い。

3SG PROG plant willow

‘彼は柳を植えている最中だ。’

e. 他 在 画 圈。 →丸を描けば描くほど多い。

3SG PROG draw circle

‘彼は円を書いている最中だ。’

#### (19) 非量化動作

a. 他 在 砸 铁块。 →?メタルは叩けば叩くほど少ない。

3SG PROG hammer metal

‘彼は金属を叩いている最中だ。’

b. 他 在 擦 镜子。 →?鏡は吹けば吹くほど多くなる。

3SG PROG wipe mirror

‘彼は鏡を拭いている最中だ。’

- c. 他 在 刷 鞋子。 →?靴は磨けば磨くほど多い。  
3SG PROG polish shoes  
'彼は靴を磨いている最中だ。'
- d. 他 在 漆 大门。 →?ドアは塗れば塗るほど多い。  
3SG PROG paint door  
'彼はドアを塗っている最中だ。'
- e. 他 在 蒸 山芋。 →?山芋は蒸せば蒸すほど多い。  
3SG PROG steam yam  
'彼は山芋を蒸している最中だ。'

・ 量化動作の達成構成(分析的特徴):

[量化動作 + 量化目的語] = 達成事象  
[非量化動作 + 量化目的語] ≠ 達成事象

【テスト2】: 進行標識「在」は「量化目的語」と共起するかどうか。

(20)「在」は量化動作文における量化目的語と共起しにくい。

- a. ?他 在 倒 一杯 茶。  
3SG PROG pour one-CF tea  
'彼はお茶を一杯注いでいる最中だ。'
- b. ?他 在 抹 一层 黄油。  
3SG PROG spread one-CF butter  
'彼はバターを一層塗っている最中だ。'
- c. ?他 在 写 一行 大字。  
3SG PROG write one-CF big-letter  
'彼は大文字を一行書いている最中だ。'
- d. ?他 在 种 一排 柳树。  
3SG PROG plant one-CF willow  
'彼は柳の木を一行植えている最中だ。'

- e. ?他 在 画 一个 圈。  
3SG PROG draw one-CF circle  
'彼は円を1つ書いている最中だ。'

(21)「在」は非量化動詞における量化目的語と共起する。

- a. 他 在 砸 一个 铁块。  
3SG PROG hammer one-CF metal  
'彼は一塊の金属を叩いている最中だ。'
- b. 他 在 擦 一面 镜子。  
3SG PROG wipe one-CF mirror  
'彼は1枚の鏡を拭いている最中だ。'
- c. 他 在 刷 一双 鞋子。  
3SG PROG polish one-CF shoes  
'彼は一足の靴を磨いている最中だ。'
- d. 他 在 漆 一扇 大门。  
3SG PROG paint one-CF door  
'彼は1枚の扉を塗っている最中だ。'

- e. 他 在 蒸 一锅 山芋。  
3SG PROG steam one-CF yam  
'彼は一鍋の山芋を蒸している最中だ。'

・ 結果状態副詞仮説の根拠(1)

結果状態副詞は、量化動作の達成結果を選択し、当該結果の状態を描写する。

【テスト3】: 結果状態副詞は量化動作の達成結果と共起し、非量化動作と共起しない。

(22) 量化動作の達成結果との共起

- a. 他 满满地 倒了 \*(一杯) 茶。  
3SG fully pour-PF one-CF tea  
'彼は一杯のお茶をなみなみと注いだ。'
- b. 他 薄薄地 抹了 \*(一层) 黄油。  
3SG thinly spread-PF one-CF butter  
'彼はバターを薄く一層塗った。'

- c. 他 歪歪扭扭地 写了 \*(一行) 大字。  
3SG in confusion write-PF one-CF big-letter  
'彼は一行の文字をぐにゃぐにゃに書いた。'
- d. 他 整整齐齐地 种了 \*(一排) 柳树。  
3SG systematically plant-PF one-CF willow  
'彼は一列の柳の木を整然と植えた。'
- e. 他 圆圆地 画了 \*(一个) 圈。  
3SG round draw-PF one-CF circle  
'彼は1つの円を(\*丸く)描いた。'

(23) 非量化動作と共起しない。

- a. \*他 扁扁地 砸了 (一个) 铁块。  
3SG be flat hammer-PF one-CF metal  
'彼は1つの金属を叩いて、ぺちゃんこにした。'

- b. \*他 明光锃亮地 擦了 (一面) 镜子。  
3SG brightly wipe-PF one-CF mirror  
'彼はびかびかに1枚の鏡を拭いた。'
- c. \*他 干干净净地 刷了 (一双) 鞋子。  
3SG be clean polish-PF one-CF shoes  
'彼はびかびかに一足の靴を磨いた。'
- d. \*他 红红地 漆了 (一扇) 大门。  
3SG be red paint-PF one-CF door  
'彼は1枚の扉を赤く塗った。'
- e. \*他 软软乎乎地 蒸了 (一锅) 山芋。  
3SG hotter steam-PF one-CF yam  
'彼は一鍋の山芋をふわふわと蒸した。'

#### 4. 本仮説の根拠(2): 結果状態副詞と掌握動作の達成点

##### ・掌握動作の定義

(24) a. 掌握動作: 動作者がある動作を通してある対象物を掌握する結果をもたらす。  
その結果状態は統語レベルで構成される。

b. 非掌握動作: 掌握動作以外の動作を指す。

##### ・分析的特徴:

持続標識「着」または結果補語との組み合わせ。

【テスト4】: 進行標識「在」・持続標識「着」と共起する場合、解釈が同じか否か。

##### ・掌握動作文では、「着」はresultative、「在」はprogressiveである。

- (25) a. 他 抓着 扶手 呢。  
3SG catch-DUR handle MOD  
'彼は取っ手を握んでいる。'

19

- b. 他 抱着 柴火 呢。  
3SG hold-DUR firewood MOD  
'彼は薪を抱えている。'
- c. 他 举着 牌子 呢。  
3SG raise-DUR placard MOD  
'彼はプラカードを上げている。'
- d. 他 端着 盘子 呢。  
3SG hold-DUR plate MOD  
'彼は皿を持っている。'
- e. 他 攥着 我的手 呢。  
3SG grasp-DUR 1SG-GEN hand MOD  
'彼は私の手を握っている。'

20

(26)「在」はprogressive解釈のみ。(進行時間が短いため、やや不自然)。

- a. ?他 在 抓 扶手 呢。  
3SG PROG catch handle MOD  
‘彼は取っ手を掴もうとしている。’
- b. ?他 在 抱 柴火 呢。  
3SG PROG hold firewood MOD  
‘彼は薪を抱えようとしている。’
- c. ?他 在 举 牌子 呢。  
3SG PROG raise placard MOD  
‘彼はプラカードを上げようとしている。’
- d. ?他 在 端 盘子 呢。  
3SG PROG hold plate MOD  
‘彼は皿を取ろうとしている。’
- e. ?他 在 攥 我的 手 呢。  
3SG PROG grasp 1SG-GEN hand MOD  
‘彼は私の手を握ろうとしている。’

21

・ 非掌握動作の場合:「在」と「着」は共にprogressive解釈。

- (27) a. 他 在 看 小说 呢。  
3SG PROG read novel MOD  
‘彼は小説を読んでいる最中だ。’
- b. 他 在 敲 门 呢。  
3SG PROG knock door MOD  
‘彼はドアをノックしている最中だ。’
- c. 他 在 砸 铁块 呢。  
3SG PROG hammer metal MOD  
‘彼は金属を叩いている最中だ。’
- (28) a. 他 看着 小说 呢。  
3SG read-DUR novel MOD  
‘彼は小説を読んでいる最中だ。’

22

- b. 他 敲着 门 呢。  
3SG knock-DUR door MOD  
‘彼はドアをノックしている最中だ。’
- c. 他 砸着 铁块 呢。  
3SG hammer-DUR metal MOD  
‘彼は金属を叩いている最中だ。’

・ 結果状態副詞仮説の根拠(2)  
結果状態副詞は掌握動作の達成結果と共起し、掌握達成結果の状態を描写する。

【テスト5】結果状態副詞は掌握動作と当該動作の結果のどちらと共起するか。

- (29) a. 他 死死地 抓\*(着) 扶手。  
3SG tightly catch-DUR handle  
‘彼はきつく取っ手を掴んでいる。’

23

- b. 他 紧紧地 抱\*(着) 柴火。  
3SG tightly hold-DUR firewood  
‘彼はしっかりと薪を抱えている。’
- c. 他 高高地 举\*(着) 牌子。  
3SG high raise-DUR placard  
‘彼は高々とプラカードを上げている。’
- d. 他 稳稳地 端\*(着) 盘子。  
3SG properly hold-DUR plate  
‘彼は水平にお皿を持っている。’
- e. 他 紧紧地 攥\*(着) 我的 手。  
3SG tightly grasp-DUR 1SG-GEN hand  
‘彼はしっかりと私の手を握っている。’

24

- ・結果補語「住、起」も「着」と同様、掌握動作の達成点を表す。

- (30) a. 他 死死地 抓\*(住)了 扶手。  
3SG tightly catch-stay-PF handle  
‘彼はきつく取っ手を握んだ。’
- b. 他 緊緊地 抱\*(住)了 柴火。  
3SG tightly hold-stay-PF firewood  
‘彼はしっかりと薪を抱え込んだ。’
- c. 他 高高地 举\*(起)了 牌子。  
3SG high raise-rise-PF placard  
‘彼は高々とプラカードを掲げ上げた。’
- d. 他 穩穩地 端\*(起)了 盘子。  
3SG properly hold-rise-PF plate  
‘彼は安定してお皿を持ち上げた。’
- e. 他 緊緊地 攥\*(住)了 我的 手。  
3SG tightly grasp-stay-PF 1SG-GEN hand  
‘彼はしっかりと私の手を握りこんだ。’

25

## 5. 結果様態仮説の根拠(3): 結果様態副詞と使役動作の達成点

- ・使役動作と非使役動作の定義

- (31) a. 使役動作: ある動作がある状態が変化した結果を引き起こす動作。したがって、使役動作には状態変化を表す有対自動詞がある。中国語の結果状態は統語レベルで構成される。
- b. 非使役動作: 状態変化を引き起こさない動作。

- ・分析的特徴:

このタイプの達成事象は使役動作述語と状態変化述語との組み合わせが必要。

【テスト6】有対他動詞は進行標識「在」と持続標識「着」のどちらと共起するか。

- (32) a. 他 在 关 门 呢。  
3SG PROG close door MOD  
‘彼はドアを閉めている最中だ。’

26

- b. 他 在 立 牌子 呢。  
3SG PROG set-up placard MOD  
‘彼はプラカードを立てている最中だ。’
- (33) a. ?他 关着 大门 呢。  
3SG close-DUR big-door MOD  
‘彼はドアを閉めている最中。’
- b. ?他 立着 牌子 呢。  
3SG set-up-DUR placard MOD  
‘彼はプラカードを立てている最中だ。’

【テスト7】有対自動詞は進行標識「在」と持続標識「着」のどちらと共起するか。

- (34) a. ?门 在 关 呢。  
door PROG close MOD  
‘ドアが閉まっている最中だ。’

27

- b. ?牌子 在 立 呢。  
placard PROG set-up MOD  
‘プラカードは立っている最中だ。’
- (35) a. 大门 关着 呢。  
3SG close-DUR MOD  
‘ドアが閉まっている。’
- b. 牌子 立着 呢。  
placard set-up-DUR MOD  
‘プラカードが立っている。’

- ・使役動作の語彙概念構造は何か。

(cf. Jackendoff 1990, Levin and Rappaport Hovov 1995, Kageyama 1996)

- (36) [x CONTROL [y BECOME [y BE AT-z( )]]]  
有対自動詞+「着」  
有対他動詞+「在」

28

- 結果状態副詞仮説の根拠(3)

結果状態副詞は使役動作の結果状態を選択し、それらの結果状態の様態を描写する。

【テスト8】: 有対他動詞と有対自動詞は結果成分と共起するかどうか。

- 有対他動詞

- (37) a. 他 紧紧地 关上了 门。  
3SG tightly close-stick-PF door  
'彼はドアをしっかりと閉めた。'
- b. ?他 紧紧地 关了 门。  
3SG tightly close-PF door  
'同上。'
- (38) a. 他 高高地 立起了 一块 牌子。  
3SG high set-rise-DUR one-PF placard  
'彼は高々とプラカードを立てた。'
- b. ?他 高高地 立了 一块 牌子。  
3SG high set-DUR one-PF placard  
'同上。'

29

- 有対自動詞

- (39) a. 大门 紧紧地 关\*(着) 呢。  
door tightly close-DUR MOD  
'ドアはしっかりと閉まっている。'
- b. 那块 牌子 高高地 立\*(着) 呢。  
that-CF placard high set-rise-DUR MOD  
'そのプラカードが高々と立っている。'
- (40) a. 那扇 大门 紧紧地 关?(上)了。  
that-CF door tightly close-rise-PF  
'そのドアはしっかりと閉まった。'
- b. 那块 牌子 高高地 立?(起来)了。  
that-CF placard high set-rise-PF  
'そのプラカードが高々と立った。'

30

## 6. 本仮説の根拠(4): 日本語の前置結果成分との対照研究

- 日本語は中国語と同様、後置結果成分も前置結果成分も観察される

- 後置結果成分

- (41) 日本語  
a. 太郎は息子を叩き起こした。 動作述語 + 使役動詞(意図あり)  
b. 太郎は靴を履きつづした。 動作述語 + 使役動詞(意図なし)
- (42) 中国語  
a. 张三 [砸 扁] 了一个 铁块。 動作述語 + 結果述語  
Zhangsan hummer flap -PF one-CF metal  
'張三は金属を叩いて、平らにした。'
- b. 张三 看书 看 得 [眼睛 很 疼]。 動作述語 + 機能動詞  
Zhangsan read book read -until eyes very be-hurt  
'張三は読書した結果、目が痛くなった。'

31

- 前置結果成分

- (43) 日本語  
a. 太郎はお皿を粉々に壊した。  
b. 太郎は壁を白く塗った。
- (44) 中国語  
a. 他 紧紧地 关上了 门。  
3SG tightly close-stick-PF door  
'彼はドアをしっかりと締めた。'
- b. 他 高高地 立起了 一块 牌子。  
3SG highly set-rise-DUR one-PF placard  
'彼は高々とプラカードを立てた。'

- 疑問

日本語の前置結果成分は中国語と同様の一般化ができるかどうか。

32



日本語における結果副詞の一般化  
日本語の結果副詞は達成事象の結果成分を選択し、達成後の結果状態を描写する。

- 根拠(1):  
日本語の前置結果成分は達成点が含まれる述語と共起する。
- 前置結果成分の生起条件  
前置結果成分は使役動詞と共起し、非使役動詞と共起しない。  
Cf. Kageyama (1996), Washio (1997)
- 使役動詞と動作動詞の区別  
(45) a. 使役動詞: 染める, 割る, 磨く  
b. 動作動詞: こする, ゆでる, 叩く

33

表 1

使役と動作	有対他動詞	有対自動詞
使役動詞	染める	染まる
	割る	割れる
	磨く	磨ける
動作動詞	擦る	?
	ゆでる	?
	叩く	?

- (46) 有対他動詞  
a. 太郎は車をびかびかに磨いた。  
b. 太郎は花瓶を粉々に割った。  
c. 太郎は髪の毛を黒く染めた。
- (47) 無対他動詞  
a. \*太郎は車をびかびかに擦った。  
b. \*太郎は花瓶を粉々に叩いた。  
c. \*太郎はそばをくたくたにゆでた。

34

### • 根拠(2): スクランプリングが可能であること

埋め込み文では、小節の述語と小節の主語の位置が置換できないのに対し、前置結果成分と目的語の位置が置換できる。

【テスト9】日本語の埋め込み文の述語は小節の主語の前に移動できる。

- (48) a. わたしは [花子を 可愛く] 思った。  
b. \*わたしは [可愛く 花子を] 思った。

では、前置結果成分は先行名詞句の前に移動できるかどうか? (Scrambling)

- (49) a. 太郎は [びかびかに 車を] 磨いた。 →cf. (46)  
b. 太郎は [こなごなに 花瓶を] 割った。

35

## 7. 結論と展望

### • 本発表の仮説

日本語と中国語における前置結果成分の一般化  
両言語における前置結果成分は達成事象(Accomplishment)の結果成分を選択し、結果状態を描写する機能を持つ副詞である。

### • 展望

- 中国語の結果表現形式はなぜ模写形式でなければならないのか。
- 後置結果成分と前置結果成分の機能上の違いは何か。

36

### 参考文献

- Baker, M.(1988) *Incorporation: A Theory of Grammatical Function Changing*. Chicago: University of Chicago Press.
- Bybee, Joan, Revere Perkins and William Pagliuca. 1994. *The evolution of grammar: Tense, aspect and modality in the languages of the world*. Chicago: The University of Chicago Press.
- Croft, William.1991. *Syntactic Categories and Grammatical Relations: The Cognitive Organization of Information*, Chicago, Ill: University of Chicago Press.
- Dowty, David. 1979. *Word meaning and Montague grammar*. Dordrecht: Reidel.
- Goldberg, Adele. (1995) *Constructions: A Construction Grammar Approach to Argument Structure*. Chicago: University of Chicago Press.
- Himan, John. (ed.) 1985. *Iconicity in Syntax: Proceedings of a Symposium on Iconicity in Syntax*, Philadelphia: John Benjamins Publishing company.
- Huang, C.-T. James. 1997. "On Lexical Structure and Syntactic Projection," *Chinese Languages and Linguistics: Morphology and Lexicon*, 2, 45-89, Academic Sinica, Taipei.
- Huang, C.-T. James. 2006. "Resultative and Un-accusatives: a Parametric View," *Chugoku Gogaku [Chinese Linguistics]*, No. 253. pp. 1-43.
- Kageyama, Taro. 1993. *Bunpo to gokeisei [Grammar and Word Formation]*. Tokyo: Hituzi Syobo.
- Kageyama, Taro. 1996. *Dooshi imiron [Verbal Semantics]*. Tokyo: Kurocio.
- Kindaichi, Haruhiko. 1950. Kokugo doushi no iji bunrui (A classification of the Verbs in Japanese, "Linguistics research " No. 15, pp. 48-63.
- Langacker, Ronald W.1991. *Foundations of Cognitive Grammar, Vol.2: Descriptive Application*. Stanford: Stanford University Press.
- Levin, Beth and Malka Rappaport Hovav. 1995. *Unaccusativity*. Cambridge, Mass.: MIT Press.

37

- Li, Jinrong. 2007. Zhibin Zhuangyu Ju de Gongneng Toushi (The perspective on the Function of the Sentences of Object NP-oriented Adverb). *Zhongguo Yuwen*, No. 4, 331-342.
- Li, YaFei. 1990. "On V-V Compounds in Chinese," *Natural Language & Linguistic Theory* 8-2, 117-207.
- Li, Yafei. 1993. Structural head and aspectuality. *Language* 69: 480-504.
- Lin, Tzong-Hong. 2001. Light verb syntax and the theory of phrase structure. Doctoral dissertation, University of California, Irvine.
- Lu Jian. 2003. Kehuanwei Mowu Zhuangyu de Juwei Shixian ji Gongneng Fenxi, *Yuyan Yanjiu*, No. 1.
- Lv Shuxiang. 1986. Hanyu Jufade Linghuoxing (The Flexibility of Chinese Syntax), *Zhongguo Yuwen*, No. 1. 1-9.
- Jackendoff, Ray. 1990. *Semantic Structures*, MIT Press, Cambridge, Massachusetts.
- Ono, Naoyuki. 2007. The scale structure and Event Type of Resultative Predicate. Ono Naoyuki (ed.) *New perspective of Resultative Construction research*, Hitsuji Shoboo. pp. 67-101.
- Ono, Naoyuki. 2009. "Kekka Koobun no Taiporaji Jo [Introduction to the Resultative Construction typology]," Ono Naoyuki( ed.) *Kekka Koobun no Taiporaji [Resultative Construction typology]*, Tokyo: Hitsuji Shoboo. pp. 1-42.
- Pustejovsky, James.1995. *The Generative Lexicon*. MIT Press.
- Uehara, Satoshi & Kingkarn Thepkanjana. 2009. "Taigo-ni okeru Kekka Koobun [Resultative Construction in Tai,]" Ono Naoyuki( ed.) *Kekka Koobun no Taiporaji [Resultative Construction typology]*, Tokyo: Hitsuji Shoboo. pp. 365-406.
- Simpson, Jane. 1983. Resultatives. (L. Levin, M. Rappaport and A. Zaenen. (eds.) *Lexical Functional Grammar*, Indiana University Linguistics Club, pp. 143-517.
- Shen, Li. 1990. Chuugokugo-no kekka hogo-o toru [V-DE] bun-no Koozoo (The Structure of "V-DE" sentences taking Resultative Small Clause in Chinese)," *Linguistics Study*, No.9, 58-92, Kyoto University Linguistics Circle.

38

- Shen, Li & Jonah Lin. 2003. "Transitivity Harmony and Head-Finality of Resultative Verbal Compounds in Chinese," *The proceedings of GLOW in Asian* 3, pp.369-382.
- Shen, Li. 2004 Aspect Agreement and Light Verbs in Chinese: A Comparison with Japanese," *Journal of East Asian Linguistics*, Vol.13, No.2, pp.141-179.
- Shen, Li. 2008. "On the light Verb DE in Chinese. " At The 16th Annual Conference of the International Association of Chinese Linguistics in Peking University.
- Shen, Li & Jonah Lin. 2009. "Chuugokugo-no Kekka Koobun-to Jishoo Koozoo [Resultative Construction and Event Structure in Mandarin,]" Shen, Li and Zhao, Huamin (eds.). *Theoretical Linguistic Research in Chinese and Japanese*, Xueyuan Press.
- Shen, Li. 2013. "Kekka Fukugoudooshi-ni kansuru Nicchuu Taishoo Kenkyuu (A Comparative Study on the Resultative Compounds in Japanese and Chinese)," Kageyamataro (ed.) *Fukugoudooshi Kenkyuu -no Saisentan: nazo -no Kaimei-ni mukete (The Forefront of V-V Compounds: investigation into Mystery)*. Hitsuji Shoboo, pp.375-411.
- Tai, James H-Y. 1985. "Temporal Sequence and Chinese Word Order." *Iconicity in Syntax*, John Haiman, ed., Amsterdam: John Benjamins Publishing Company, pp. 49-72.
- Tai, James H-Y. 1984. "Verbs and Times in Chinese: Vendler's Four Categories." *Papers from the Parasession on Lexical Semantics, Chicago Linguistic Society*, pp. 289-296.
- Washio, Ryuichi 1997. "Resultatives, Compositionality and Language Variation." *Journal of East Asian Linguistics* Vol. 6, No. 1: 1-49.
- Vendler, Zeno. 1967. *Linguistics in philosophy*. Ithaca: Cornell University Press.
- Zhu, Dexi. 1982. *Yufa Jiangyi (The Lecture Notes on Grammar)*, Beijing: Shangwu Yinshuguan.

39

ご清聴ありがとうございました！

40